

万葉集

[vol.107]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します



新田部皇子への献歌

この歌は、柿本人麻呂が新田部皇子に献つた長歌(二六一番歌)の反歌として『万葉集』巻三に収められています。長歌の方には、

矢釣山木立も見えず降りまがふ雪のさわける朝楽も

矢釣山の木立も見えぬほどに降りまがう雪の乱れふる朝は楽しいことよ。

柿本人麻呂 卷三(二六一番歌)

訳

「やすみししわご大王 高輝らす日の皇子 ときいます 大殿のうへにひさかたの 天伝ひ来る 白雪じもの往きかよひつつ いや常世まで」(皇子がいらっしやる大殿の上へ降りてくる雪のようにいつまでも行き通いましょう)とあり、新田部皇子が居住する大殿(皇子宮)において皇子を褒め称えた歌であることがわかります。両歌から、この日は新田部皇子宮のあたりで雪が降っていたとみられます。なお、反歌第四句「雪のさわける」(漢字本文「雪驟」)は「雪にうぐつく」などの異訓もあり、訓みが定まっています。

『古代天皇制史論』ほか)。出生順については異なる説もあります。新田部が最年少の男子であることは確実で、初めての叙位年である文武天皇四(七〇〇)年頃に成人したと想定されます。

新田部の母親は藤原五百重娘(藤原鎌足の娘)で、文武天皇との歌のやりとり(『万葉集』巻二・一〇三、一〇四番歌)から、鎌足が邸宅を構えた大原(現在の明日香村小原付近)の地に五百重娘も居住していたことが知られます。今回取り上げた歌の内容からみて新田部皇子宮からは矢釣山が見えたはずであり、矢釣は大原の北隣に当たる現在の明日香村八釣付近と考えられますので、新田部皇子宮は五百重娘の邸宅の近くにあって、あるいは母子同居していたのかもしれない。

『日本書紀』などの記述によると、文武天皇には十人の男子がおり、叙位の順番などから、高市・草壁・大津・忍壁・磯城・穂積・長・弓削・舎人・新田部皇子の順に誕生したとみられています(寺西貞弘

本文 万葉文化館 竹内亮)

本文 万葉文化館 竹内亮)

万葉ちゃんのつぶやき

和歌や作者などに関連するものを紹介するよ!

万葉ちゃん

竹田遺跡(明日香村)

八釣集落西側の丘陵部南側にある竹田遺跡の発掘調査では、飛鳥時代後期の大型建物跡が見つかっており、複数の建物が方位を揃えて並んでいたことがわかっています。新田部皇子宮との関連は不明ですが、身分の高い人物の邸宅である可能性が指摘されています。遺跡は埋め戻されておられ、現在見ることはできませんが、調査成果の概要はWEB上で閲覧が可能です。



発掘調査時の様子 (写真提供 明日香村教育委員会)

明日香村飛鳥・東山
明日香村文化財課
0744-54-5600

発掘調査の成果など詳しくはこちら▶

